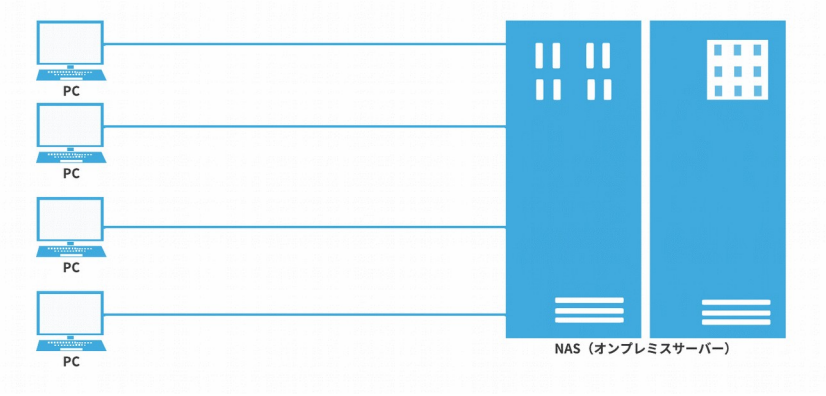
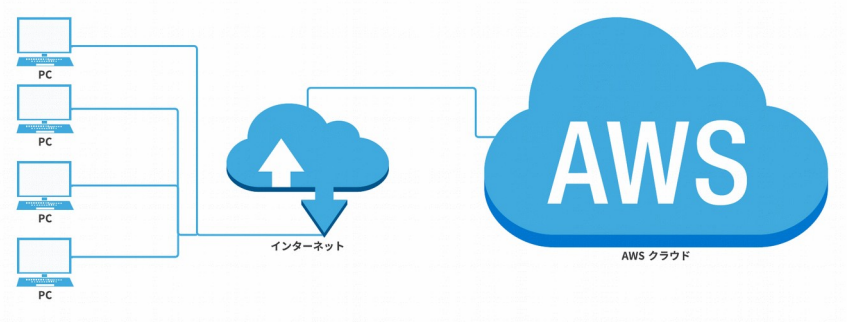
NASとクラウドストレージの連携2



and



前回のおさらい

NAS+クラウドストレージのメリット

・高速にデータの読み書きができる。（インターネットでなく社内LANの速度に依存）

・AWS（Amazon）やAzure（MicroSoft）などを直接操作するより圧倒的に簡単にクラウドストレージを管理できる。（専任の担当者や社外委託が不要で運用可能）

・クラウドストレージだけの運用に比べて変動費が安くなる。

・NASだけの運用に比べて初期導入費を圧倒的に抑えられスケーラブルな運用が可能。

NAS+クラウドストレージのデメリット

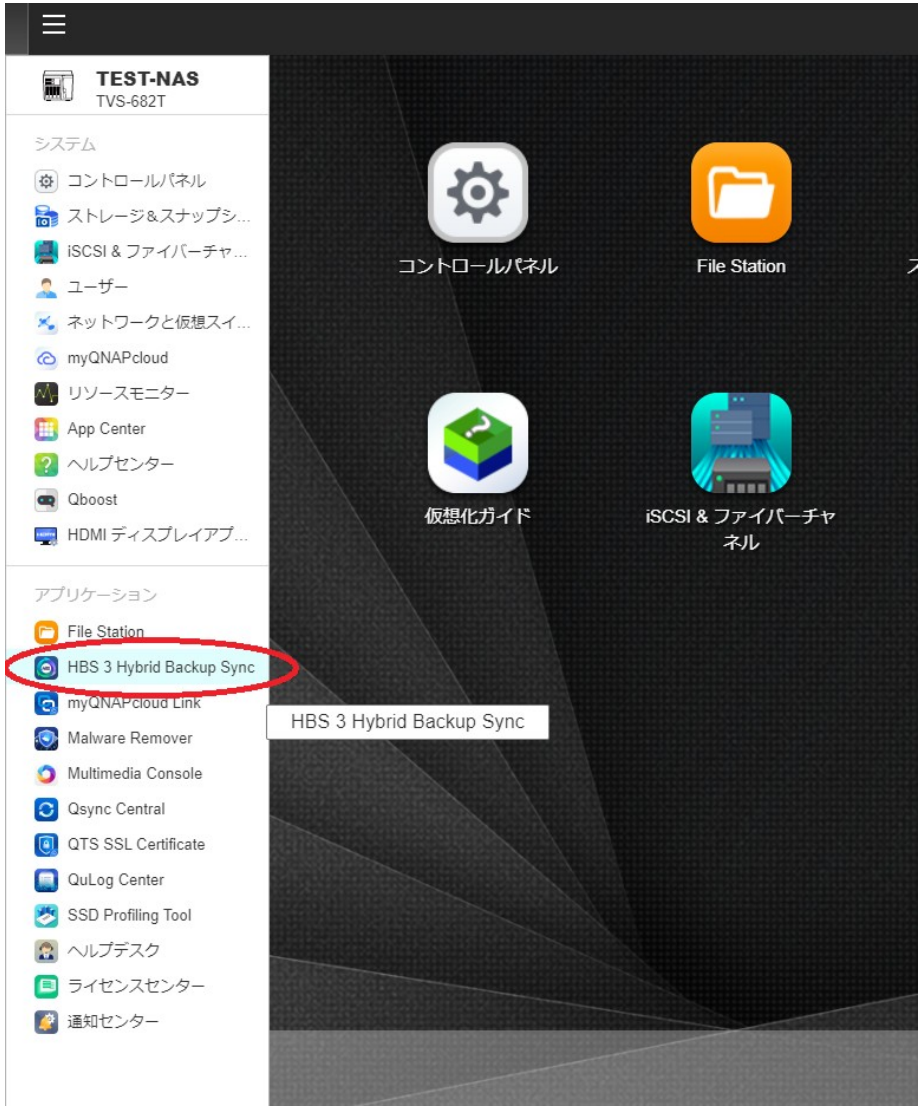
・初期費用が多少かかる。（初期費用　NAS単体運用>NAS+クラウド>クラウド単体運用）

・NASに設定が必要

実際の設定方法

（NAS-クラウドでどちらかというとNASがメインの場合）

1. NAS（QNAP）にログインしたらメニューよりHBS3（Hybrid Backup Sync)を選択



2.　左メニューより「同期」を選択し、今すぐ同期の中にある「同期ジョブ」の種類を選択
（今回は一方向同期を選択してます。）

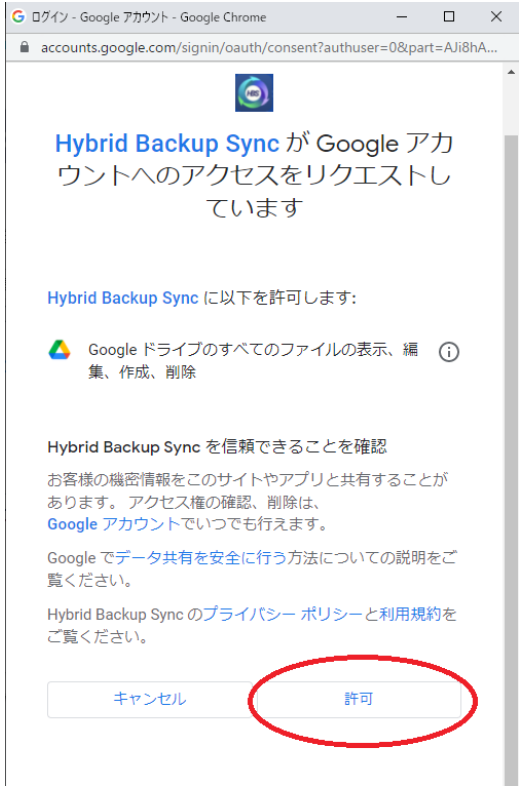
*双方向同期ジョブ・・・一般的な同期なイメージです。NASデータを書き換えたらクラウド側のデータが書き換わるだけでなく、クラウド側のデータを書き換えた場合もNAS側のデータが書き換わります。

*一方向同期ジョブ・・・一般的なバックアップのイメージ。NAS側のデータを書き換えたらクラウド側のデータを書き換える。クラウド側のデータを書き換えてもNAS側のデータは書き換わらない。（クラウド側だけ更新しNAS側に旧データがあるとクラウド側も旧データに戻る）

*アクティブ同期ジョブ・・・上記の逆バージョン。クラウド側のデータにNAS側を書き換えます。

**バックアップ＆復元・・・左メニューにある「バックアップ＆復元」は「一方向同期ジョブ」と似てますがデータを暗号化したり世代管理が出来たりと高機能です。ただし、生データではなく暗号化されるので復元にはNASが必要になります。

3. NASと同期するクラウドの種類を選択
（今回はGoogleドライブを選択してます。）

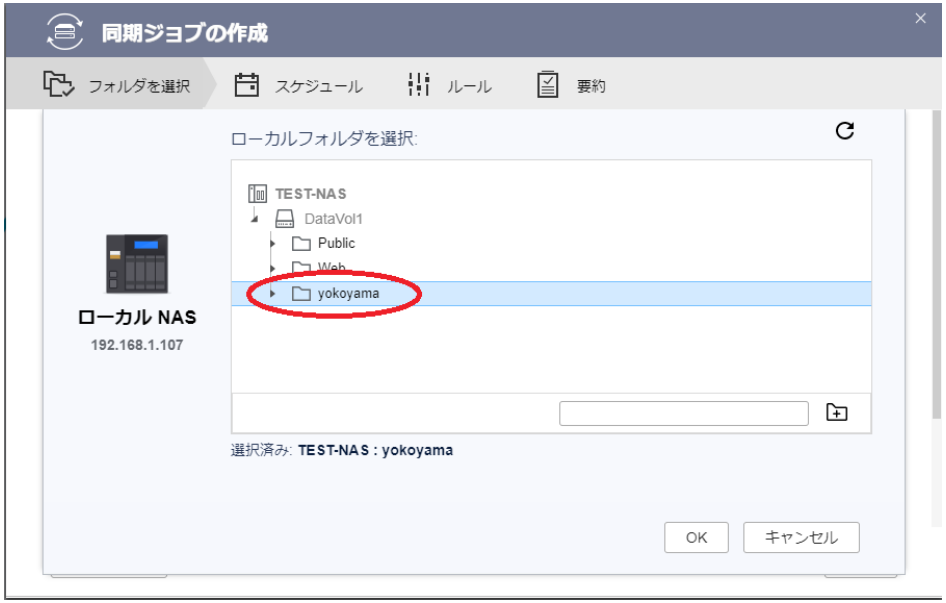


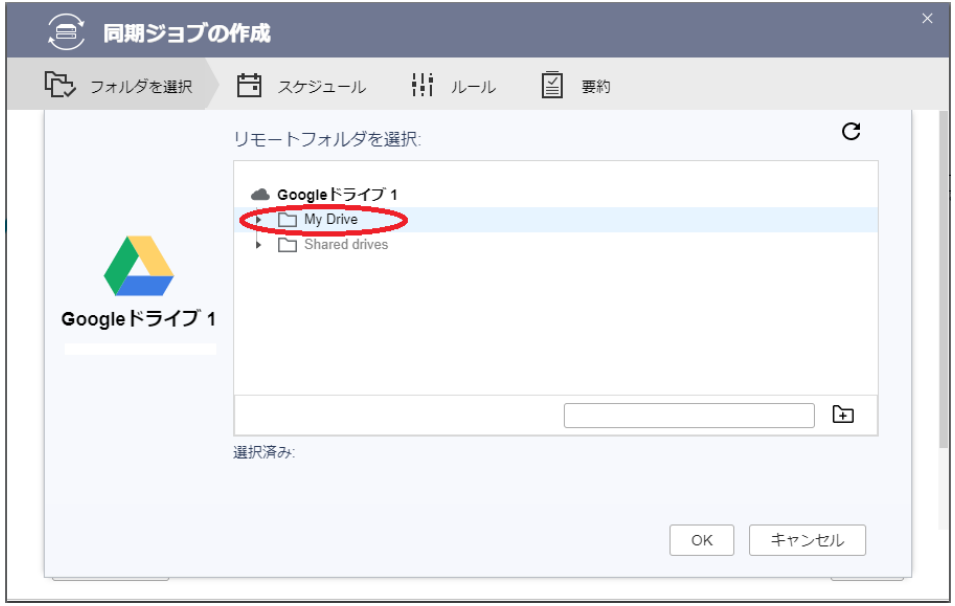
4. ブラウザーが自動起動するのでGoogleにログインを許可

5. Googleドライブ内でストレージ領域を作成します。(フォルダの作成)

6. NASの管理画面に戻り「選択」をクリック。

7. NAS側のフォルダを選択。





8. クラウド側のフォルダを選択。

9.　同期フォルダを確認。

10.　スケジュールの設定に入ります。

（リアルタイム同期の場合はNASのファイルが変更されると直後にクラウド側のファイルも更新されますがこの場合はクラウド側のデータ書き換えに伴う費用が発生する場合があります。）

10. スケジュールの設定を行います。

（ここでは毎日午前0時に同期を行う設定をしてます。）

11. フィルターの設定を行います。
（一般的には変更する必要はありません。）

12. 最終的な同期ジョブを作成します。

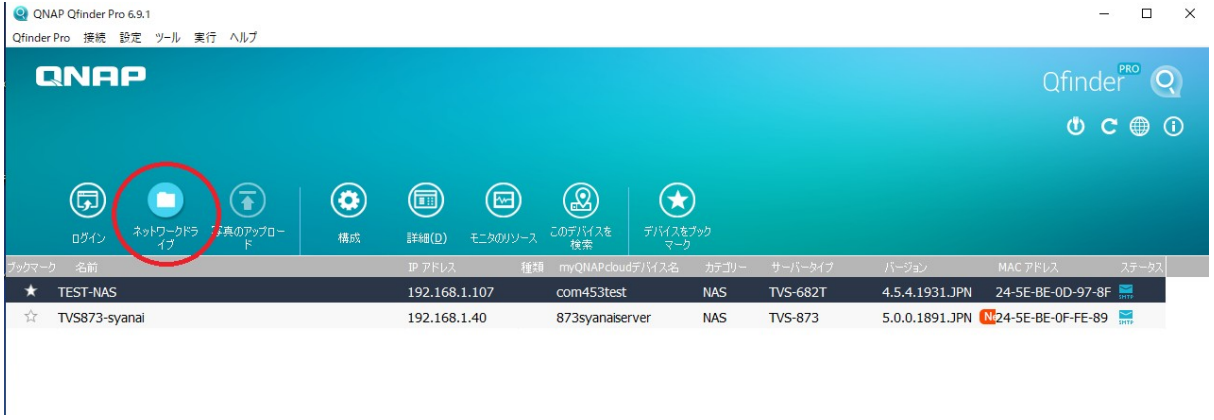
13.　開始時に同期したい場合は画面左上の「今すぐ同期」をクリック。

ショートカットの作成

*デスクトップに同期フォルダのショートカットを作成します。
（以下は必須ではありません。）

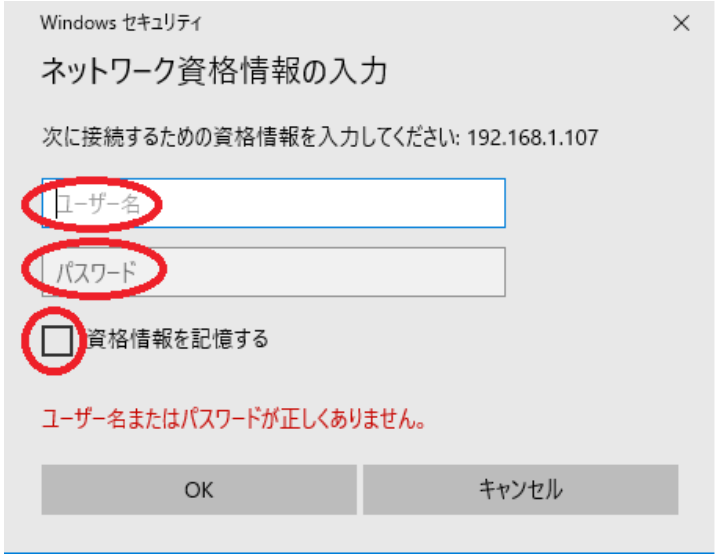
1. QNAP管理ソフトをPCにインストールして起動。

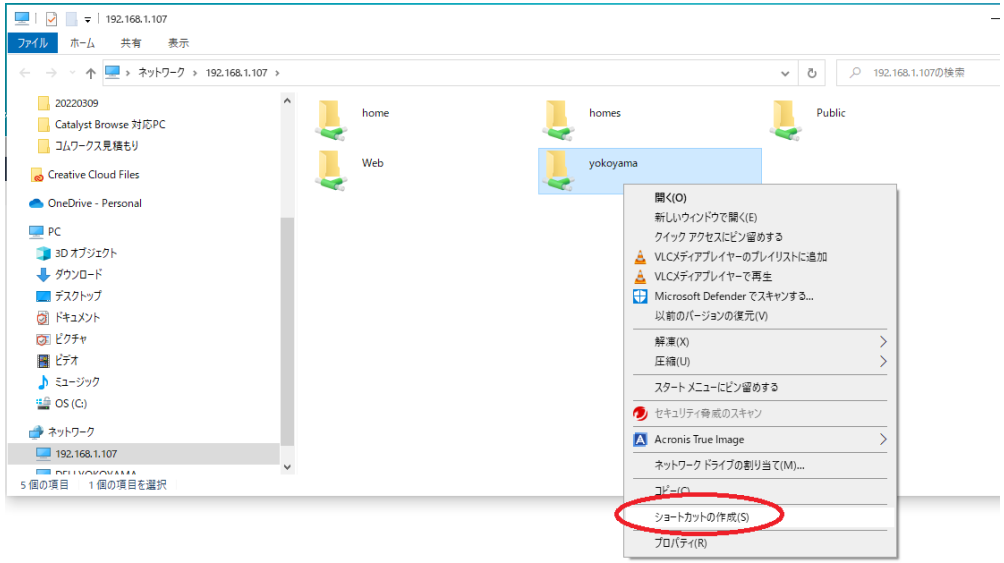
https://www.qnap.com/ja-jp/utilities/essentials



2. 起動した画面の上部メニューにある「ネットワークドライブ」を選択。

3. Windowsがユーザー名、パスワードを求めて来るので入力。（パソコンのユーザー名、パスワードでなくNASにログインする時のユーザー名、パスワードを入力）
また、資格情報を記憶しておくと都度入力する必要がありません。





4. 左記画面になるのでショートカットを作りたいフォルダを右クリック「ショートカットの作成」をクリックするとデスクトップにショートカットが出来上がり、以降このフォルダに移動したファイルはすべてNASに保存されその後、自動でクラウドストレージに同期されます。